

図書館情報学の未来：九州大学の新専攻に期待する

植松， 貞夫
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科長

<https://hdl.handle.net/2324/18802>

出版情報：イベント等資料，2010-12-18
バージョン：
権利関係：



図書館情報学の未来 九州大学の新専攻に期待する

2010年12月18日

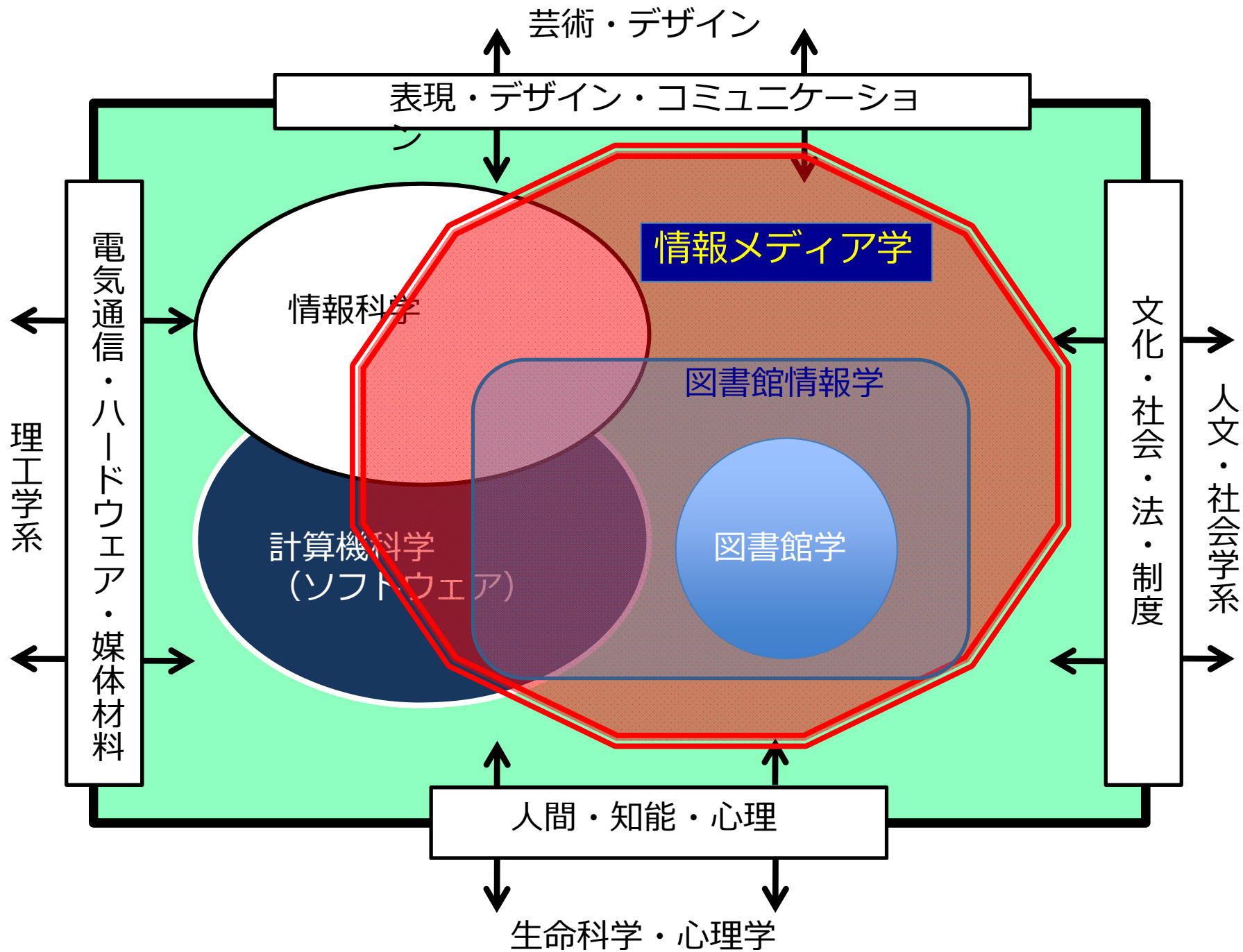
筑波大学

植松貞夫

図書館学→図書館情報学→

米国・カナダ	日本
1808年 「図書館学」について初の用語定義 1887年 最初の「図書館員養成学校」 コロンビア大学 School of Library Economy 1923年 司書職の養成は学士号を入学資格に 1926年 シカゴ大学に大学院教育課程設置 Graduate School of Library Science 1963年～ 図書館業務へのコンピュータの利用 データベース、ドキュメンテーション技術 1964年 ピッツバーグ大学が Graduate School of Library and Information Science に改組	1949年 文部省図書館職員養成所 1951年 ジャパン・ライブラリー スクール創設 1952年 日本図書館学会設立 1964年 図書館短期大学開学 1968年 図書館・情報学科：慶應義 塾 ◇1970年 情報元年 1971年 文献情報学科開設 1979年 図書館情報大学開学 図書館学と情報学の融合 1980年 『第三の波』刊行

米国	日本
1982年 トロント大学で改組 1983年 『図書館情報学辞典』にALA ◇1980年代末までにはほとんどの 大学院で改組・改名 ◇1990年代～ デジタル化技術 インターネットの普及 情報革命 ◇全ての学問領域で情報が基盤要素に なる 1996年頃～ 文系、理系を問わず情報 に関する教員を集めて再構成 ピッツバーグ大学： School of Information Science ミシガン大学： School of Information など、「図書館」の文字をはずす	1984年 大学院図書館情報学研究科 開設（修士課程） 1993年 知識情報論講座を設置 「知識資源の流通と新しい知識 の創造にかかる科学へと発展」 1998年 日本図書館情報学会に改称 2000年 国立情報学研究所設置 (Institute of Informatics) 2000年 大学院情報メディア研究科に 改組（区分博士課程） 2004年 情報学群設置 ☐ 知識情報・図書館学類 ☐ 情報メディア創成学類 ☐ 情報科学類



4つの教育研究分野

□情報メディア社会

情報にかかる法律・政策・制度、情報文化・メディア史
情報資料

□情報メディアマネージメント

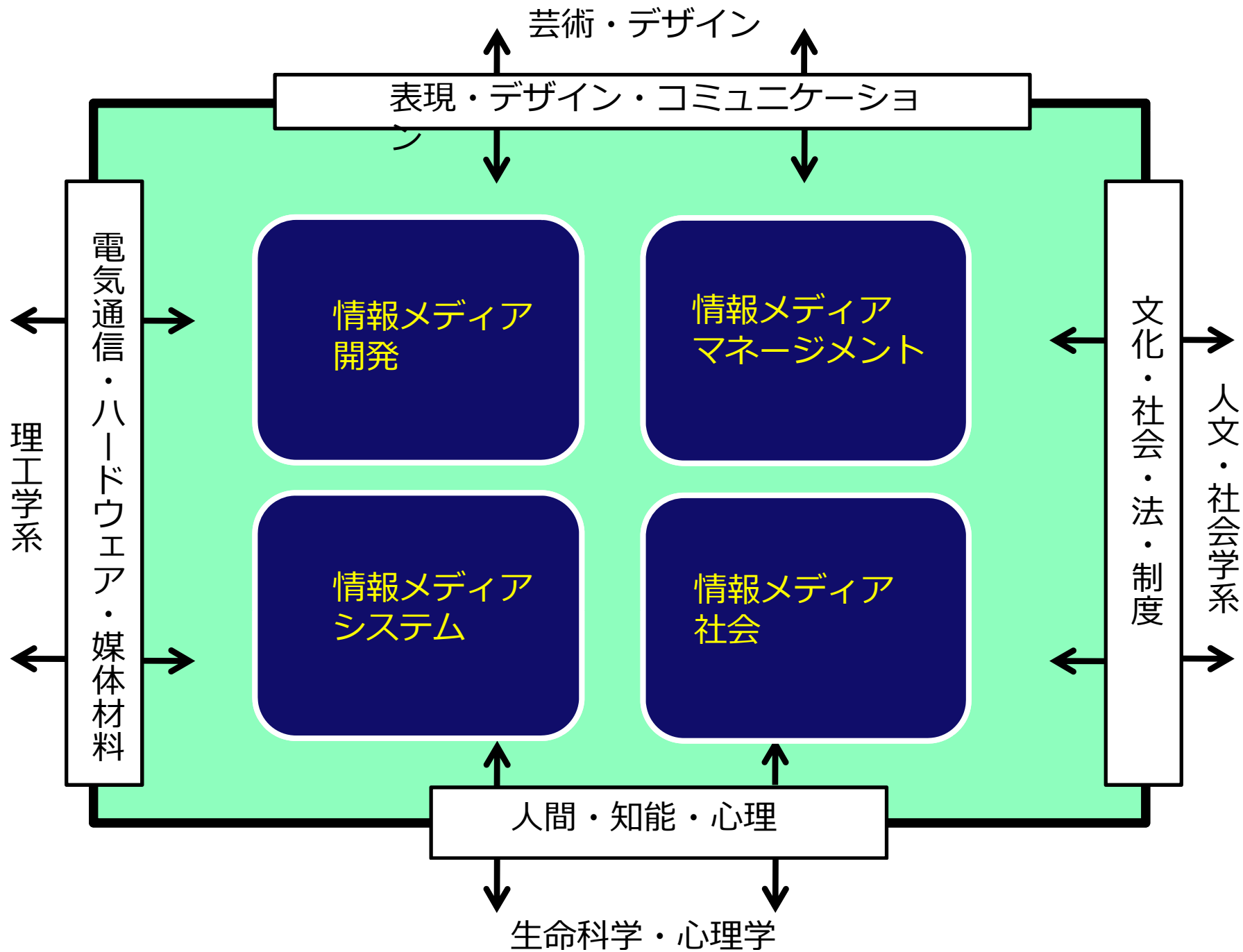
図書館の経営、情報サービスの計画、情報メディア資源の組織化、情報メディア資源の評価と活用

□情報メディアシステム

情報メディア発信・受信・共有化・管理システム、情報メディアネットワーク・基盤システム

□情報メディア開発

コンテンツの創成・構造化、コンテンツ媒体、コンテンツ評価・共有



知的コミュニティ基盤センター

研究科のリサーチフロント：高度情報ネットワーク社会における
情報基盤に関する研究

- 「知の表現基盤」 部門

情報発信支援システムの研究開発

- 「知の共有基盤」 部門

デジタルライブラリー、メタデータ

- 「知の伝達基盤」 部門

図書館・情報サービス機関の評価方法

- 「知の環境基盤」 部門

基幹デバイスの開発研究

連携機関

- 株式会社電通（社会分野）
- 理化学研究所（マネージメント分野）
- NTTアクセスサービスシステム研究所
（システム分野）
- 凸版印刷株式会社（開発分野）

図書館流通センター図書館経営寄付講座

- 平成18年度より27年度まで10年間

- 目的：図書館経営のための人材養成

- 准教授2名を採用

公共経営論（NPM）：総務省

公共サービス論：文部科学省

4種の教育プログラム

つくば

□ フルタイムプログラム

修士（図書館情報学）、修士（情報学）の
学位プログラム方式

□ 英語プログラム

英語でのみ講義・演習・研究指導

東京サテライト（平日夜間＋土曜）

□ 図書館情報学キャリアアッププログラム

図書館職員等現職者限定

□ 図書館経営管理コース

履修証明プログラム

博士後期課程：研究者、教員、実務世界の指導者



博士前期課程：図書館員、情報管理専門家、情報技術者、システムデザイナー、情報システム運営管理者、メディアクリエーター等の専門職業人



大学院における教育と研究指導



図書館情報
学を学んだ
学生



文系、理系を
問わず、他の
領域を学んだ
学生



図書館・企
業等の現職
者・社会人



留学
生

図書館は絶滅危惧種か

- 図書館は知識伝達・再生産の場 → 媒体が紙の図書 → そのための場所＝「図書」館がつくられてきた → 電子媒体に転換 → 2000年には「利用者は図書館に行く必要はもはやなくなっている」
(F.W.ランカスター、1982年、『紙からエレクトロニクスへ 図書館・本の行方』)
- (2000年以降)STM (科学・工学・医学) 領域の学術雑誌の多くは電子ジャーナル化され、利用者は大学図書館に行く必要はなくなった。
大学図書館では冊子体の購入をやめてきている

□ 「20～30年先には出版されるものの70%以上のものは電子形態のみのものとなり」（長尾真、1996年、「電子図書館時代へ向けての大規模図書館の未来像」）

□ Google Book Scan

□ 各種電子書籍端末の登場

□ 国立国会図書館デジタルアーカイブ

当館は、デジタル化した資料及び将来電子的に納本される書籍等を著作権者及び出版社の利益に配慮しつつ、国内のどこからでもアクセスできるような仕組みを模索しております。その仕組みの要点は、
公共的な団体に当館のデジタル資料を無償で提供し、
当該団体が公衆に有料で配信して、その料金のうち
から権利者等に還元するというものです（2009年）

養成すべき大学図書館職員

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」20101203

- (1) 学術情報流通に詳しく学術情報基盤を構築できる
ライブラリアン
- (2) 特定の主題分野のコレクション構築を行うとともに、その主題に関わる学習・研究を行う利用者に対してサービスを行うライブラリアン
- (3) 教員や学生とコミュニケーションをとりながら教育課程の企画・実施に関わるライブラリアン
- (4) 研究者として図書館情報学の発展を担うライブラリアン
- (5) インターネット等の技術を駆使して新しい利用者サービスを構築するライブラリアン

公共図書館職員

『これからの図書館像-地域を支える情報拠点を目指して』

平成18年3月：文部科学省

■ 課題解決支援型図書館

→ 職員が専門的知識、技術、経験をもとに
利用者のさまざまな課題解決を支援する

□ 図書館長

□ 利用者の視点にたった経営方針の策定

□ 効率的な運営方法

□ 図書館サービスの評価

□ 継続的な予算の獲得

□ 広報

□ 危機管理

□ 図書館職員

□ リカレント教育

□ 専門主題情報担当者の教育

拡充を計画している方向

(1) 人材養成

- 「アーキビスト」養成プログラムの構築
九州大学新専攻と同一の方向
- 多様で高度な情報メディアコンテンツの創成、
発信にかかる専門職業人・研究者を育成するプ
ログラムの構築
- 図書館を経営できる図書館員養成プログラム
現職者のキャリアアッププログラム
図書館経営管理コース：履修証明プログラム

(2) 教育研究

- 現在の図書館を超えた、新しい図書館サービス基盤の構築に向けた教育研究
- 図書館・ミュージアム・文書館等と教育コミュニティとの連携拠点
- アジア太平洋地域、欧米の大学との連携強化

ライブラリーサイエンス専攻

❖ 講義

＜課題解決型教育＞

❖ P T L

❖ インターンシップ

❖ 研究指導

❖ 記録管理の専門家

❖ 情報専門職

❖ 情報管理・提供組織 の管理者

❖ 情報通信技術専門家

❖ 研究者